

今、問題になっていること 悪いクマを作らないで!

人里近くにクマが出没するようになると、人身事故の危険性が高くなります。



ツキノワグマは本来、山の中で暮らす動物です。しかし、食べ物を探して動き回っているうちに、人里にカキなどの食べ物があることを覚えると、そこに繰り返し出没するようになります。

解決に向けた取り組み こんな対策が必要です

クマの保全には、被害を防ぐことが最も重要です。クマを人の生活圏から遠ざけ、クマと人の接触を避けることが必要です。



クマがすむ地域の方 ▶ クマを人里に引き寄せない

1 クマが好きなものを里に置かない

ゴミを野外に置かない

生ゴミはクマを誘引します。屋外に置かないようにする必要があります。また、田畑への残飯まき、収穫しない作物の放置もクマを引き寄せてしまいます。

果実は放置しない

クマの好物であるカキやクリは早めに収穫するか、電気柵などで守りましょう。収穫する予定のないものは処分する必要があります。



2 ヤブは刈り取る

里と山の間クマが隠れるヤブがなくなると、クマは山から出てきにくくなります。住居や通路周辺のヤブは刈り取って見通しをよくすることで、遭遇を避けることができます。

クマがすむ森へ入る方 ▶ クマとばったり出合わない

1 山へは音の出るものを持っていく

人の気配に気づくと、基本的にクマは人を避けます。鈴やラジオなど人工的な音の出るものを身に付けましょう。雨の日や川沿いは、人間の臭いや物音がクマに伝わりにくいので、大きな音を出しましょう。



2 夕方から朝まで、遭遇事故の危険性が高い

森に暮らすクマは昼行性ですが、人里に下りて活動する時には、夜行性になることが知られています。クマが出没している情報が出た場合は、事故の起こりやすい夕方～朝の外出時は注意しましょう。

ツキノワグマ保護管理計画に基づいた対策

兵庫県では「ツキノワグマ保護管理計画」を策定し、科学的保護管理をすすめています。

人里に出没した時の対応

特定鳥獣保護管理計画の詳細については、森林動物研究センターのホームページ <http://www.wmi-hyogo.jp/plan.html> をご参照ください。

1 注意喚起・防護・誘引物の除去

クマを里に誘引している原因を取り除くなどの対策をとります。

2 追い払い



轟音玉 (動物駆逐用煙火)



追い払い

出没した時には、ロケット花火や爆竹、轟音玉などで追い払い、人里がこわいと教え込みます。

※追い払いには危険が伴います。市役所や町役場にご相談ください。



3 学習放獣



捕獲作業



放獣されるクマ

防除や追い払いで、出没が防げない場合は、ドラム缶オリで捕獲します。初めて被害を発生させたクマには、人里はこわいと教え込むために、トウガラシスプレーなどで、おしおきをして山に戻します。

4 捕殺



対策の努力をしても効果がでない場合や、人身事故の危険性が高い場合は、人の安全の確保のため、殺処分は避けられません。そうならないために、「クマを人里に引き寄せない対策」を事前に徹底する必要があります。

被害防除の支援

防護技術支援

出没現場における誘引物管理や電気柵による防護方法などを普及しています。



普及啓発

遭遇を避けるために必要な知識や対策を普及しています。



科学的モニタリング

生息動向の把握

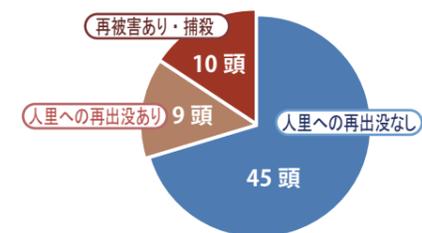
生息状況、繁殖状況、遺伝的多様性の変動を継続的に調査分析しています。また対策の影響を分析します。



行動追跡

学習放獣等により放獣したクマには発信器を装着し、その後の行動を監視します。これまでに追跡した64頭のうち70%は人里へ出でていません。

放獣後の行動 (2003～2008年の追跡データより)



一部のクマにはGPSを装着しており、さまざまな行動が見えてきました。

GPSを装着したクマの放獣後の動き

